

平成 29 年度 病害虫発生予察 特殊報 第 2 号

病害虫名： キクビスカシバ *Nokona feralis* (Leech)

対 象： キウイフルーツ

1. 病害虫情報の内容

キクビスカシバの発生と被害を、東京都多摩地域のキウイフルーツにおいて初めて確認した。

2. 発生経過

(1) 春先に枝部に食入する害虫による新梢の枯死等の被害について、平成 29 年8月に東京都三鷹市のキウイフルーツ生産者から調査依頼があり、キウイフルーツ園の現地調査を実施した。調査では2年生以上の枝で、フラス(虫糞)および前年のものと思われるスカシバ類特有の蛹殻を確認した(図1、図2)。

平成 29 年9月、当該キウイフルーツ園のうち1圃場に性フェロモントラップ^{*}を設置し調査した結果、スカシバ類雄成虫が1個体捕獲されているのが確認された(図3)。また、調査時に園内で飛翔する成虫を発見し、1個体捕獲した(図4)。

これらは名城大学有田名誉教授及び農林水産省横浜植物防疫所の同定により、東京都のキウイフルーツでは未報告のキクビスカシバ(スカシバガ科)と確認された。

^{*}キクビスカシバのフェロモンルアーは市販品が無く、鳥取大学中准教授からご提供いただいた。

(2) 本種のキウイフルーツでの発生は福岡県(平成 16 年)、愛媛県および佐賀県(平成 23 年)、長崎県(平成 24 年)で確認され、特殊報が発表されている。

3. 形態

成虫は開長 29.5~40mm(雄)、38~45mm(雌)。胸部の前端、腹部第2節及び腹部第4節に黄色い帯がある(胸部前端のものは羽化時にこすれ、中央部が消失することが多い。腹部第4節のものは第2節に比べて幅広い)。胸部側板に黄色の斑点がある。卵は直径約1mm。小豆色の平たい円盤状で中央部がややくぼむ。若齢幼虫の頭部は褐色、胴部は淡い赤褐色、終齢幼虫の頭部は赤褐色、胴部は淡桃紫色である。

4. 生態

成虫は9月上旬頃から確認され、年 1 回発生する。

卵は、葉柄基部、枝分岐部等に産み付けられる。卵で越冬し、幼虫は4月頃にふ化する。ふ化した幼虫は新梢に食入する。蛹化は枝の内部で行われ、羽化時には蛹殻が半分表面に出た格好で残る。

スカシバガ科の昆虫で、マタタビ科の植物を加害することが確認されているのは本種のみである。本種はキウイフルーツの他に、同じマタタビ科の野生植物であるミヤママタタビ、サルナシも食餌植物として記録されている。

5. 被害

5月頃には新梢の基部や葉の着生部からフラスの排出が見られる。新梢の被害としては食入部位に着生した葉の枯死、伸長抑制等がみられる。6月頃には2年生以上の枝に移動し、フラスの量も増加するため食入部位は判別しやすくなる。類似の症状を示すコウモリガは、枝の分岐部等に幅広い面積で虫糞や木屑を糸で綴っているのが判別が可能である。

6. 防除対策および注意

(1) 新梢での被害を確認したら、フラスを目安にできるだけ早く被害部(幼虫の生息部位)を除去する。

(2) 平成 29 年 10 月 31 日現在、キウイフルーツで本種に使用できる登録農薬は以下の通りである。

フェニックスフロアブル(4000 倍、3回以内、収穫7日前まで、スカシバ類での登録)幼虫のふ化時期に散布、スカシバコン L(100 本/10a、成虫の発生初期～終期、キクビスカシバでの登録)成虫の交尾阻害

(3) 不明な点があれば病害虫防除所や普及センターに連絡する。

7. 参考文献

福岡県(平成 16 年)、愛媛県および佐賀県(平成 23 年)、長崎県(平成 24 年)特殊報

窪田聖一ら(2017):キウイフルーツに対するキクビスカシバ(チョウ目:スカシバガ科)の産卵・加害部位と成虫の発生消長および薬剤防除法. 日本応用動物昆虫学会誌第 61 巻第 2 号. 73-80



図 1 フラス(虫糞)の排出状況



図 2 蛹殻



図 3 フェロモントラップに誘殺された雄成虫



図 4 成虫腹側